

防犯・安全・景観に配慮した公園計画の提案

～八王子市の高倉南公園をモデルケースとして～



シビックデザイン研究室
渡辺 大介
指導教員：永見豊

研究の背景と目的

現在、公園での物販さらには子供を狙ったような犯罪、遊具での事故などの報道を多く目にするようになった。しかし、公園の現状は、秩序違反により犯罪の呼び水となっていたり、遊具の老朽化により利用者の事故が起きていたり、樹木の管理が不十分で景観面が低下している場所などがある。公園は、子供連をはじめ、多くの住民が利用する場所のため、特に防犯面・安全面を向上させる必要がある。また、親いの場所として、景観面への配慮も必要になる。それらは公共施設である公園を多くの人に安心して利用してもらい、自分の住んでいる街に愛着心を持つてもらい、住みやすい街づくりへとつながることになる。そこで、本研究では防犯、安全、景観の向上に必要な要素を整理し、八王子市にある高倉南公園をモデルケースとして、誰もが安心、安全、快適に利用できる公園の提案を行った。

防犯、安全、景観向上に必要な要素

文獻¹⁾ web 検索、八王子市の公園設置資料²⁾などをとに、防犯、安全、景観をキーワードとして公園に求められる要素を抽出した。防犯では領域性と監視性の向上、安全では公園内施設の素材や種類の選定、景観では樹木・植栽の選定、空間デザインの向上などである。この成果をチェックリスト(表1)として整理し、このリストを元に、八王子市にある街区公園を30カ所調査した。実際に調査して改善の必要な箇所をフォーマット(図1)でまとめた。防犯面では、野田が悪い、園内に死角がある場所が多い、安全面では、遊具の柱基部でコンクリート基礎が出ている、怪我をしやすいため遊具がある、景観面では、樹木がうっそうとしていて、日中に暗いなどの改善の必要な公園が多数あった。調査を通して危険な遊具を撤去する、見通しを確保するために樹木を減らすなど、改善が必要な箇所を見直すだけでは、利用者にとっても楽しい公園にはならないことに気が付いた。また、住民が高齢化した住宅街で、公園で遊ぶ子供がいない場所も多かった。

表1 チェックリストの一部

項目	防犯	安全	景観
車	外から見える(監視性)	明るく開放的か	明るく開放的か
樹木	歩道側から見える(監視性) 樹木が多いか	歩道側から公園の景色が見えるか	歩道側から公園の景色が見えるか
遊具	幼児のエリアと遊具で遊べるか 子供を待つ大人以外に入りこむことができるか(監視性) 人が入りにくいか	遊具のエリアと遊具で遊べるか 危険な遊具は多いか 遊具のエリアと遊具で遊べるか 遊具のエリアと遊具で遊べるか	子供だけの遊具と遊具で遊べるか 危険な遊具は多いか(色、形) 遊具のエリアと遊具で遊べるか
トイレ	中に人が入る心配はないか 外から見て中に人がいるのがわかるか	閉鎖的でないか 手が届かないか	閉鎖的でないか 手が届かないか
ベンチ/アンス	車道側はあつたか 人が入りにくいか	公園の奥の方向の景色はあつたか 人が入りにくいか	閉鎖的でないか 手が届かないか 公園の奥の方向の景色はあつたか 人が入りにくいか
水遊び場	人が入りにくいか	ぶつかった時に影響が知らずに入るか 人が入りにくいか	閉鎖的でないか 手が届かないか ぶつかった時に影響が知らずに入るか 人が入りにくいか

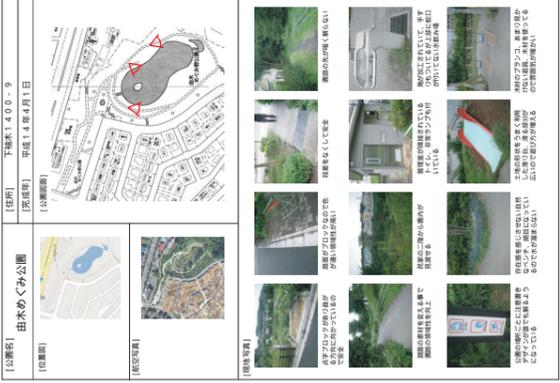


図1 現地調査フォーマット

街区公園の提案

対象年齢によって、防犯、安全の内容は異なる。そこで、利用者の特性に合わせた公園づくりも必要であると考えた。近隣住民が利用する規模の小さな街区公園について、公園利用の多い「幼児」「小学生」「高齢者」の3つに特化した、防犯・安全・景観を向上させる内容を再整理し、(表2)にまとめ、防犯・安全・景観の要素を満たすモデル(図2、3、4)を作成し、その有効性の確認を行った。またモデルは一边が25メートルの正方形と設定した。

表2 利用者層別の公園施設の着眼点

対象層	樹木と緑陰
共通	<ul style="list-style-type: none"> 樹木に耐れる機会を確保するため必要。 緑陰を作り日陰を作ることができると必要。 監視性を損なわないような配置が必要。
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 憩いの面から樹木の設置は必要。 憩いの面から樹木の数は多くする。
小学生	<ul style="list-style-type: none"> 外にいる機会が多い子供連の熱対策対策に必要。 多すぎると監視性が低くなるので樹木の数は少なめにする。
幼児	<ul style="list-style-type: none"> 親が子供を見失わないように木を高くして視認性を損なわないようにする。その際近隣住宅の二階から境界を失わないようにする。 親がいるので樹木の数は多くてもかまわない。

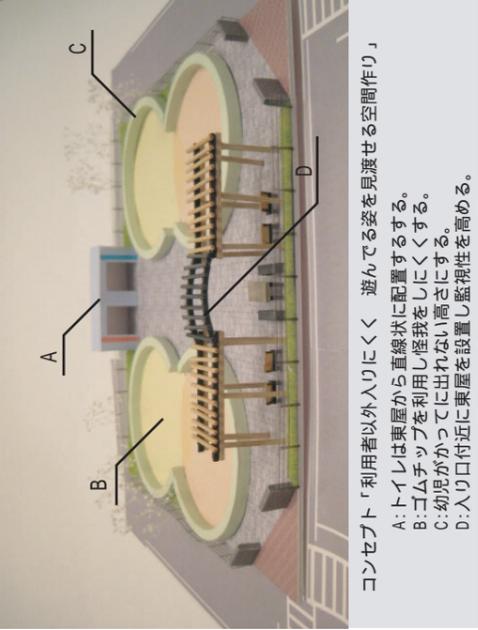


図2 幼児に特化した公園

コンセプト「利用者以外入りこく 遊んでる姿を見渡せる空間作り」
A: トイレは東屋から直線状に配置する。
B: ゴムチップを利用し怪我をしにくくする。
C: 幼児がつかって出れない高さにする。
D: 入り口付近に東屋を設置し監視性を高める。

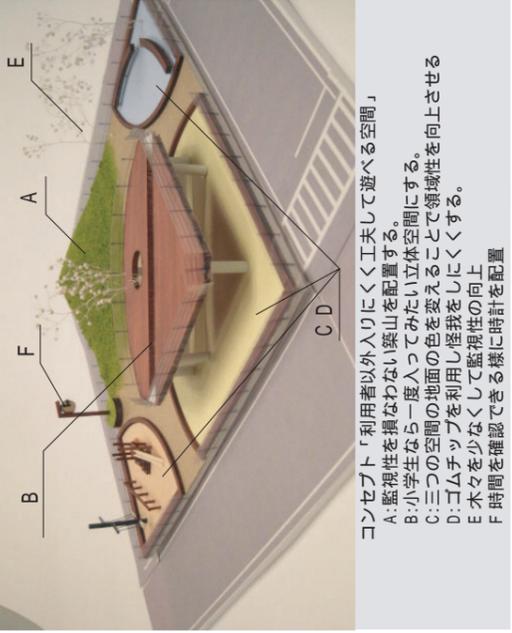


図3 小学生に特化した公園

コンセプト「利用者以外入りこく工夫して遊べる空間」
A: 監視性を損なわない築山を配置する。
B: 小学生なら一度入ってみたい立体空間にする。
C: 3つの空間の地面の色を変えることで領域性を向上させる。
D: ゴムチップを利用し怪我をしにくくする。
E 木々を少なくして監視性の向上
F 時間を確認できる様に時計を配置

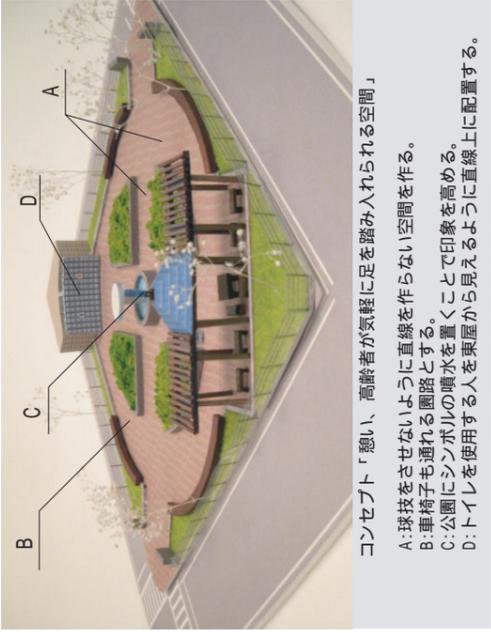


図4 高齢者に特化した公園

コンセプト「憩い、高齢者が気軽に足を踏み入れられる空間」
A: 球技をさせないように直線を作らない空間を作る。
B: 車椅子も通れる園路とする。
C: 公園にシンボルの噴水を置くことで印象を高める。
D: トイレを使用する人を東屋から見えないように直線上に配置する。

これまでの成果は11月25日に行なわれた「八王子市長と学生とのふれあいトーク」にて発表し(図5)、「計画のコンセプトは今の時代に必要である。」「利用者の特化したアイデアはおもしろい。」「などの意見を頂いた。また、工業デザイン学科の先生、八王子市公園課の職員にヒヤリングを行い、「遊びの呼び水になる遊具の設置が必要。」「利用者を限定するのは難しい。などの意見を頂いた。



図5 ふれあいトークの様子

高倉南公園の提案

街区公園での意見を踏まえ、街区公園より上の大きさの近隣公園を対象に「防犯・安全・景観に配慮した公園」を計画、広い敷地を利用して、利用者の特化したゾーン分けを行い、そのエリア毎に「高齢者」「小学生」「幼児」毎に配慮すべき内容を盛り込んだモデル(図7)を作成。対象は、近隣公園で住民からリニューアルの要望がある高倉南公園とした。公園の課題を以下に示す。

- ・樹木が生い茂っている (図6-)
- ・園内の監視性が悪い (図6-)
- ・園路と樹木の境界線が不明 (図6-)
- ・ホーレスがある (図6-)
- ・路上駐車がある (図6-)

考察

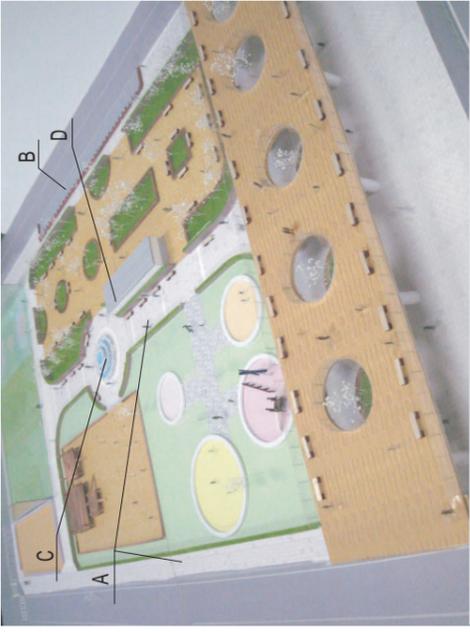
今回の研究で様々な公園を見てきたが、今後、一番大切なのは近隣の住民の協力が必要不可欠である。協力してもらって作りも必要になる。これから公園をもっと楽しい場所にして、たくさん住民が利用してくれることを願う。

- 参考文献
- 1) 「犯罪はこの場所である」
「消防防犯都市」
「安全・安心まちづくり研究会」著、ぎょうせい、2005年
「公園・緑地に関する調査」
：小宮信次著、光文社、2005年
：五十嵐太郎、中公新書、2004年
：安全・安心まちづくり研究会著、ぎょうせい、2004年
：東京都八王子市、2006年
 - 2)

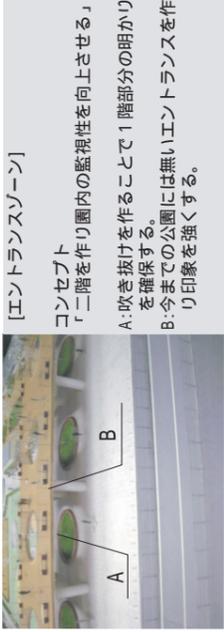
模型7 高倉南公園の提案模型



図6 公園の現状



A: 同一の舗装材を用い、散歩ができる空間とする。
B: 路上駐車を無くすために駐車場の配置する。
C: 公園の憩いの向上と公園の誘導効果のため、噴水を設置する。
D: トイレや駐車場の管理、スポーツ施設の運営のため、管理施設を配置する。



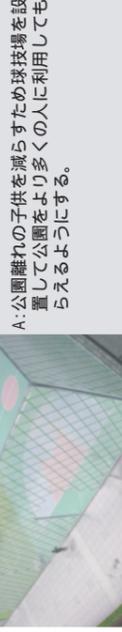
[エンタランスゾーン]
コンセプト
「二階を作り園内の監視性を向上させる」
A: 吹き抜けを作ること1階部分の明かりを確保する。
B: 今までの公園には無いエントランスを作り印象を強くする。



[高齢者ゾーン]
コンセプト
「樹木が多く公園に緑を求めた高齢者にゆとりと通してもらおう」
A: 樹木を多めに配置して緑を求めた高齢者のニーズに応える。
B: 他のゾーンより柵を高めにして視線を気にならないようにする。



[幼児・小学生ゾーン]
コンセプト
「関係者以外入りこく」
A: 幼児が勝手に出られないようにする。
B: 遊ぶスペースにはゴムチップを使用し安全を確保、又地面の色を変えることで領域性を向上させる。
C: 小学生が喜びが遊具を配置する。



[球技ゾーン]
コンセプト
「公園ではあまりできない球技場の提供」
A: 公園離れの子供を減らすため球技場を設置して公園をより多くの人に利用してもらいやすいようにする。